

公立大学法人滋賀県立大学大学院履修規程

平成 18 年 4 月 1 日
公立大学法人滋賀県立大学規程第 86 号

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人滋賀県立大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第 19 条第 4 項の規定に基づき、授業科目の種類等および履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(履修の登録)

第 2 条 学生は、履修しようとする授業科目について、所定の期日までに履修登録を行わなければならない。

(履修の禁止)

第 3 条 次に掲げる授業科目は、履修することができない。

- (1) 登録をしていない授業科目
- (2) 既に単位を修得した授業科目
- (3) 授業時間が重複する科目

(授業科目等)

第 4 条 授業科目の種類、配当年次、単位数、必修・選択の別および修了要件は、別表 1 のとおりとする。

- 2 教育職員の免許取得に必要な教科に関する科目の種類、単位数および必修・選択の別は、別表 2 のとおりとする。

(学部等の授業科目の履修)

第 5 条 博士前期課程の学生は研究科会議の議を経て、研究科長の認めるところにより、授業科目担当教員の承認を得て、学部の授業科目を履修することができる。

- 2 博士後期課程の学生は、研究科会議の議を経て、研究科長の認めるところにより、授業科目担当教員の承認を得て、学部、博士前期課程の授業科目を履修することができる。

- 3 前 2 項の規定により修得した単位は、修了の要件となる単位に算入しない。

(修士論文および博士論文の提出)

第 6 条 博士前期課程において、所定の授業科目を 30 単位以上修得した者または修得見込みの者は、修士論文を提出することができる。

- 2 博士後期課程において、所定の授業科目を 4 単位以上修得した者または修得見込みの者は、博士論文を提出することができる。

(試 験)

第 7 条 定期試験は、学期末に期間を定めて行う。ただし、実験、演習等については、試験を行わずに成績を定めることがある。

- 2 前項の規定にかかわらず、授業科目によっては随時試験を行うことがある。

(成績評価)

第 8 条 授業科目の成績の評点は、試験の成績および平常の成績等を総合して、100 点

満点で採点する。

- 2 成績の表示は次のとおりとし、優、良および可を合格とし所定の単位を与える。

評 価	評 点
優	80点以上
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満
不可	60点未満

- 3 前項のほか、評点を付さない授業科目については、合格、不合格をもって表す。
4 修士論文の審査、博士論文の審査および最終試験の成績評価は、合格または不合格をもって表す。

(委任)

第9条 この規定に定めるもののほか、授業科目の履修方法等に関し必要な事項は、研究科会議が定める。

付 則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において滋賀県立大学大学院に在学し、引き続き在学する者に係る授業科目、単位数、修了要件、資格その他の履修に関しては、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、別表1中「環境設計特論」、「地域住環境計画学」、「地域産業学」、「現代中国特論」および「栄養教育特論」の授業科目は、平成18年4月1日前より引き続き在学する者も履修し、単位を修得することができる。

付 則

この規程は、平成18年10月1日から施行する。

付 則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1および別表3の規定は、平成19年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成19年4月1日以後に編入学し、転入学し、または再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。
- 4 前2項の規定にかかわらず、改正後の別表1中「建築デザイン特論」、「建築史特論」、「動的システム論」および人間看護学研究科の各授業科目は、平成19年4月1日前より引き続き在学する者も履修し、単位を修得することができる。

付 則

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1、別表2および別表3の規定は、平成20年4月1日以後に入学し

た者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。

- 3 前項の規定にかかわらず、平成 20 年 4 月 1 日以後に編入学し、転入学し、または再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。
- 4 前 2 項の規定にかかわらず、改正後の別表 1 中「環境動態学プレゼンテーション I」、「環境動態学プレゼンテーション II」、「電子システム特論」、「電子情報特論」および「光量子物性論」は、平成 20 年 4 月 1 日前より引き続き在学する者も履修し、単位を修得することができる。

付 則

- 1 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表 1、別表 2 および別表 3 の規定は、平成 21 年 4 月 1 日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成 21 年 4 月 1 日以後に編入学し、転入学し、または再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。
- 4 前 2 項の規定にかかわらず、別表 1 中（1）博士前期課程における「地域再生システム特論」、「栄養応答論」、「看護臨床的人間形成特論」および「看護臨床的人間形成特論演習」ならびに（2）博士後期課程における「環境科学特論」、「生物圏環境特論」、「生態系保全特論」、「生物生産特論」、「環境意匠特論」、「地域環境経営特論」、「研究方法特論」および「リサーチ・ワークショップ」は平成 21 年 4 月 1 日前より引き続き在学する者も履修し、単位を修得することができる。

付 則

- 1 この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表 1、別表 2 および別表 3 の規定は、平成 22 年 4 月 1 日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成 22 年 4 月 1 日以後に編入学し、転入学し、または再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。
- 4 前 2 項の規定にかかわらず、改正後の別表 1 中「社会学特論 A」、「日本考古学 A」、「環琵琶湖地域論 A」、「女性史・ジェンダー論 A」、「美術史特論 A」、「地域産業論 A」、「朝鮮史特論 A」、「朝鮮史特論 B」、「アジア考古学 A」、「モンゴル・ディアスポラ論 A」、「現代中国特論 A」、「環琵琶湖保存修景計画論 A」、「空間デザイン特論」、「学校栄養教育実践特論」、「調理科学特論」、「食品栄養特論」、「看護研究方法論 II」、「看護管理論」、「薬物治療学」、「慢

性看護学特論A」、「慢性看護学特論B」、「慢性看護支援論A」、「慢性看護支援論B」、「慢性看護支援論C」、「慢性看護支援論演習」、「慢性看護学課題研究」、「慢性看護学実習Ⅰ」、「慢性看護学実習Ⅱ」、「インターンシップC」および「インターンシップD」は、平成22年4月1日前より引き続き在学する者も履修し、単位を修得することができる。

付 則

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1および別表2の規定は、平成23年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成23年4月1日以後に編入学し、転入学し、または再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。
- 4 前2項の規定にかかわらず、改正後の別表1中、「児童健康問題特論」、「行動学特論」、「栄養機能科学特論」、「食文化特論」、「小児医学特論」、「運動処方学特論」および「地域食育実践学特論」は、平成23年4月1日前より引き続き在学する者も履修し、単位を修得することができる。

付 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、平成24年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成24年4月1日以後に編入学し、転入学し、または再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1および別表2の規定は、平成24年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成24年4月1日以後に編入学し、転入学し、または再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。
- 4 前2項の規定にかかわらず、改正後の別表1中「バイオマスエネルギー変換論」、「応用流体機械」、「トライボロジー特論」、「教育制度論特講」および「フィールド心理学特講」は、平成24年4月1日前より引き続き在学する者も履修し、単位を修得することができる。

付 則

- 1 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表 1 および別表 2 の規定は、平成 25 年 4 月 1 日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規程にかかわらず、平成 25 年 4 月 1 日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。
- 4 前 2 項の規程にかかわらず、改正後の別表 1 中「ナノテクノロジーキャリアアップ特論」は平成 25 年 4 月 1 日前より引き続き在学する者も履修し、単位を修得することができる。

付 則

- 1 この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表 1 および別表 2 の規定は、平成 26 年 4 月 1 日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規程にかかわらず、平成 26 年 4 月 1 日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

- 1 この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表 1 および別表 2 の規定は、平成 27 年 4 月 1 日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成 27 年 4 月 1 日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表 1 および別表 2 の規定は、平成 28 年 4 月 1 日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成 28 年 4 月 1 日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者

の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

- 4 前2項の規定にかかわらず、改正後の別表1中「インターンシップF」は、平成28年4月1日前より引き続き在学する者も履修し、単位を修得することができる。

付 則

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1および別表2の規定は、平成29年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成29年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1および別表2の規定は、平成30年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成30年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、平成31年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成31年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1および別表2の規定は、平成31年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成31年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1および別表2の規定は、令和2年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。

- 3 前項の規定にかかわらず、令和2年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、令和3年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、令和3年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、令和4年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、令和4年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、令和5年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、令和5年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、令和6年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、令和6年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

付 則

- 1 この規程は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、令和7年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。

- 3 前項の規定にかかわらず、令和7年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。
- 4 改正前の規定による本学大学院人間看護学研究科修士課程の入学者については、なお従前の例による。

付 則

- 1 この規程は、令和8年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1および別表2の規定は、令和8年4月1日以後に入学した者について適用し、同日前から引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、令和8年4月1日以後に編入学し、転入学し、または、再入学した者が履修すべき授業科目の種類および単位数については、当該者の属する年次と同一の年次に属する者の例による。

規程名: 公立大学法人滋賀県立大学大学院履修規程
別表1

(1) (博士前期課程)

環境科学研究科

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単 位 数			修 了 要 件
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	【環境動態学専攻】					必修科目18単位、選択科目12単位以上の計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格すること。
	(研究科共通)					
	GIS／リモートセンシング論	1、2		2		
	環境リスク論	1、2		2		
	Environmental Sciences in Japan	1、2		2		
	国際環境マネジメント特論	1、2		2		
	(生物圏環境研究部門)					
	土壌圏物質動態論	1、2		2		
	地圏環境論	1、2		2		
	陸面過程論	1、2		2		
	水利環境論	1、2		2		
	化学物質動態論	1、2		2		
	(生態系保全研究部門)					
	物質循環論	1、2		2		
	水圏生態系動態論	1、2		2		
	森林生態学特論	1、2		2		
	集水域環境論	1、2		2		
	生態系影響論	1、2		2		
	生物社会共生論	1、2		2		
	生物多様性論	1、2		2		
	生態系保全特別講義	1、2		2		
	(生物生産研究部門)					
	植物生産環境論	1、2		2		
	植物遺伝資源論	1、2		2		
	動物生産環境論	1、2		2		
	生産環境管理論	1、2		2		
	園芸学特論	1、2		2		
	微生物学特論	1、2		2		
	魚類栄養学特論	1、2		2		
	(専攻共通)					
	生物統計解析論	1、2		2		
	環境研究倫理特論	1、2		2		
	環境動態学特別演習Ⅰ	1	4			
環境動態学特別演習Ⅱ	2	4				
環境動態学特別研究Ⅰ	1	4				
環境動態学特別研究Ⅱ	2	4				
環境動態学プレゼンテーションⅠ	1	1				
環境動態学プレゼンテーションⅡ	2	1				
(キャリア教育関連)						
インターンシップC	1			1		
インターンシップD	1			2		
インターンシップF	1			3		

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単 位 数			修 了 要 件
			必修	選択	自由	
授 業	【環境計画学専攻】					必修科目16単位、選択科目14単位以上の計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格すること。
	(研究科共通)					
	GIS／リモートセンシング論	1、2		2		
	環境リスク論	1、2		2		
	Environmental Sciences in Japan	1、2		2		
国際環境マネジメント特論	1、2		2			

科 目 の 概 要	(環境意匠研究部門)				
	環境造形特論	1、2		2	
	建築設計特論	1、2		2	
	生態建築学特論	1、2		2	
	建築デザイン特論	1、2		2	
	ランドスケープデザイン特論	1、2		2	
	都市計画特論	1、2		2	
	建築史特論	1、2		2	
	建築論特論	1、2		2	
	建築計画特論	1、2		2	
	構造設計特論	1、2		2	
	居住環境工学	1、2		2	
	建築構造特論	1、2		2	
	建築技術特論	1、2		2	
	環境設計特論	1、2		2	
	環境計画学特別演習 I A	1	4		<input type="checkbox"/>
	環境計画学特別演習 I B	1	4		<input type="checkbox"/>
	環境計画学特別演習 II A	1、2	4		<input type="checkbox"/>
	環境計画学特別演習 II B	1、2	4		<input type="checkbox"/>
	(地域環境経営研究部門)				
	農林環境政策論	1、2		2	
	循環型社会形成論	1、2		2	
	地域資源経営論	1、2		2	
	資源循環と国際貿易	1、2		2	
	参加型計画運営論	1、2		2	
	環境政策形成過程論	1、2		2	
	環境開発論	1、2		2	
環境計画学特別演習 III	1、2	4			
環境計画学特別演習 IV	1、2	4			
(専攻共通)					
環境計画学特別研究 I	1	4			
環境計画学特別研究 II	1、2	4			
(全研究科横断推薦科目)					
環境研究倫理特論	1、2		2		
(キャリア教育関連)					
インターンシップC	1			1	
インターンシップD	1			2	
インターンシップF	1			3	

□印および○印
の科目から1科目
ずつ選択

工学研究科

授 業 科 目	授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単 位 数			修 了 要 件
			必修	選択	自由	
授 業 科 目	【材料科学専攻】					必修科目10単位、選択科目20単位以上の計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格すること。ただし、表中の選択科目から6科目12単位以上を修得すること。
	(研究科共通)					
	研究方法論	1		1		
	テクニカルコミュニケーション	1		1		
	総合工学セミナー	1		1		
	(専攻共通)					
	先端複合材料科学	1、2		1		
	材料科学特別実験	1～2	5			
	材料科学特別演習	1～2	5			
	(無機材料部門)					
	固体物性特論	1、2		2		
	非晶質無機材料	1、2		2		
構造・化学機能セラミックス	1、2		2			
材料プロセス熱力学	1、2		2			
電子・光機能セラミックス	1、2		2			

概要	光量子物性論	1、2		2	
	ナノ・マイクロ組織制御工学	1、2		2	
	機能界面化学	1、2		2	
	先端無機材料科学	1、2		1	
	(有機材料部門)				
	高分子固体構造	1、2		2	
	高分子材料物性	1、2		2	
	高分子材料合成	1、2		2	
	天然高分子材料	1、2		2	
	遺伝子生化学	1、2		1	
	機能有機分子合成	1、2		2	
	環境機能材料	1、2		2	
	酵素化学	1、2		2	
	生体機能化学特論	1、2		1	
	先端有機材料科学	1、2		1	
(キャリア教育関連)					
インターンシップC	1			1	
インターンシップD	1			2	
インターンシップF	1			3	

授業科目の名称		配当年次	単位数			修了要件
			必修	選択	自由	
授業 目 の 概 要	【機械システム工学専攻】					必修科目10単位、選択科目20単位以上の計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格すること。ただし、表中の選択科目から6科目12単位以上を修得すること。
	(研究科共通)					
	研究方法論	1		1		
	テクニカルコミュニケーション	1		1		
	総合工学セミナー	1		1		
	(専攻共通)					
	機械システム工学特別実験	1～2	5			
	機械システム工学特別演習	1～2	5			
	(機械システム工学部門)					
	応用流体力学	1、2		2		
	燃焼工学	1、2		2		
	伝熱学特論	1、2		2		
	混相流工学	1、2		2		
	強度設計工学	1、2		2		
	機械運動論	1、2		2		
	応用メカトロニクス論	1、2		2		
	非線形制御論	1、2		2		
	最適化システム論	1、2		1		
	動的システム論	1、2		2		
	NC工作機械	1、2		2		
ロボasts設計論	1、2		2			
人工知能	1、2		2			
非破壊評価特論	1、2		2			
(キャリア教育関連)						
インターンシップC	1			1		
インターンシップD	1			2		
インターンシップF	1			3		

授業科目の名称		配当年次	単位数			修了要件
			必修	選択	自由	
授業	【電子システム工学専攻】					必修科目10単位、選択科目20単位以上の計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格すること。ただし、表中の選択科目から6科目12
	(研究科共通)					
	研究方法論	1		1		
	テクニカルコミュニケーション	1		1		
総合工学セミナー	1		1			

科	(専攻共通)				単位以上を修得すること。
	電子システム工学特別実験	1~2	5		
目	電子システム工学特別演習	1~2	5		
	(電子工学部門)				
の	集積システム設計論	1、2		2	
	無線システム工学	1、2		2	
概	荷電粒子ビーム工学	1、2		2	
	光物性特論	1、2		2	
要	ナノテクノロジー特論	1、2		1	
	(電子応用部門)				
	超伝導デバイス	1、2		2	
	電力エネルギー工学	1、2		2	
	音響工学	1、2		2	
	ナノ計測工学	1、2		2	
	(情報部門)				
	確率過程論	1、2		2	
	ヒューマンコンピュータインタラクション	1、2		2	
	複雑ネットワーク概論	1、2		2	
	マルチメディア情報処理論	1、2		2	
	(キャリア教育関連)				
	インターンシップC	1		1	
	インターンシップD	1		2	
	インターンシップF	1		3	

人間文化学研究科

授業科目の名称	配当年次	単位数			修了要件
		必修	選択	自由	
【地域文化学専攻】					必修科目16単位、選択科目14単位以上の計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格すること。
(専攻共通)					
地域文化学特別演習	1~2	8			
地域文化学特別研究	1~2	8			
(日本・歴史文化論部門)					
日本考古学A	1、2		2		
日本考古学B	1、2		2		
環琵琶湖地域論A	1、2		2		
環琵琶湖地域論B	1、2		2		
女性史・ジェンダー論A	1、2		2		
女性史・ジェンダー論B	1、2		2		
美術史特論A	1、2		2		
美術史特論B	1、2		2		
アジア考古学A	1、2		2		
アジア考古学B	1、2		2		
中国文化史特論	1、2		2		
対外文化交流特論A	1、2		2		
対外文化交流特論B	1、2		2		
(日本・現代地域論部門)					
日本生活文化論	1、2		2		
社会学特論A	1、2		2		
社会学特論B	1、2		2		
地域産業論A	1、2		2		
地域産業論B	1、2		2		
環琵琶湖保存修景計画論	1、2		2		
地域計画特論	1、2		2		
地域文化遺産調査・情報論	1、2		2		
現代中国特論A	1、2		2		
現代中国特論B	1、2		2		
(国際文化論部門)					

応用言語学特論A	1、2	2	
応用言語学特論B	1、2	2	
英語詩学特論	1、2	2	
言語科学特論	1、2	2	
英文学特論	1、2	2	
国際文化論特講A	1、2	2	
国際文化論特講B	1、2	2	
国際文化論特講C	1、2	2	
国際文化論特講D	1、2	2	
国際文化論特講E	1、2	2	
国際文化論特講F	1、2	2	
国際文化論特講G	1、2	2	
現代文化特論	1、2	2	
(キャリア教育関連)			
インターンシップC	1		1
インターンシップD	1		2
インターンシップF	1		3

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単 位 数			修 了 要 件
		必修	選択	自由	
【生活文化学専攻】					必修科目16単位、選択科目14単位以上の計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格すること。
(共通科目)					
授 生活文化学特別演習	1~2	8			
生活文化学特別研究	1~2	8			
業 (生活デザイン部門)					
住環境デザイン特論A	1、2		2		
住環境デザイン特論B	1、2		2		
住環境デザイン特論C	1、2		2		
道具デザイン特論A	1、2		2		
道具デザイン特論C	1、2		2		
服飾デザイン特論A	1、2		2		
服飾デザイン特論B	1、2		2		
構想デザイン特論A	1、2		2		
構想デザイン特論B	1、2		2		
生活デザインプロジェクト演習	1、2		2		
概 (健康栄養部門)					
栄養制御論	1、2		2		
分子運動栄養学特論	1、2		2		
栄養疫学特論	1、2		2		
病態栄養学特論	1、2		2		
臨床栄養管理特論	1、2		2		
実践栄養教育学特論	1、2		2		
食品機能論	1、2		2		
運動生理・生化学特論	1、2		2		
健康栄養特論 I	1、2		2		
健康栄養特論 II	1、2		2		
(人間関係部門)					
教育学特講A	1、2		2		
教育学特講B	1、2		2		
比較行動論特講	1、2		2		
行動発達論特講	1、2		2		
社会学特講A	1、2		2		
社会学特講B	1、2		2		
フィールド心理学特講	1、2		2		
(健康栄養部門 全研究科横断推薦科目)					
環境研究倫理特論	1、2		2		
(キャリア教育関連)					
インターンシップC	1			1	

インターンシップD	1		2
インターンシップF	1		3

人間看護学研究科

授業科目の名称	配当年次	単位数			修了要件
		必修	選択	自由	
【人間看護学専攻】					
(共通科目)					
看護理論	1、2	2			基盤看護学部門 および生涯健康看護学部門にあつては、必修科目12単位、選択科目18単位以上の計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格すること。 ▲ただし、表中の▲選択科目のうち、▲共通科目から6単位以上を、▲専門科目から10単位以上(専攻する部門の科目4単位以上を含む。)を修得すること。
看護研究方法論	1、2	2			
家族看護学特論	1、2		2		
看護政策論	1、2		2	△	
看護教育学	1、2		2		
コンサルテーション論	1、2		2	△	
看護倫理	1、2		2	△	
看護管理学	1、2		2	△	
フィジカルアセスメント	1、2		2	▲	
病態生理学	1、2		2	▲	
薬物治療学	1、2		2	▲	
看護英語論文入門	1、2		2		
学校保健学	1、2		2		
(基盤看護学部門)					
看護技術学特論	1、2		2		
看護技術学演習	1、2		2		
人的資源活用論特論	1、2		2		
人的資源活用論演習	1、2		2		
形態機能・生体機構学特論	1、2		2		
形態機能・生体機構学演習	1、2		2		
精神看護援助方法論	1、2		2		
精神看護関連技法演習	1、2		2		
在宅看護学特論	1、2		2		
在宅看護学演習	1、2		2		
公衆衛生看護学特論	1、2		2		
公衆衛生看護学演習	1、2		2		
基盤看護学特別研究	1～2	8			
数理保健学特論	1、2		2		
数理保健学演習	1、2		2		
(生涯健康看護学部門)					
母性看護学特論	1、2		2		
母性看護学演習	1、2		2		
小児家族看護学特論	1、2		2		
小児家族看護学演習	1、2		2		
成人継続支援看護学特論	1、2		2		
成人継続支援看護学演習	1、2		2		
老年看護学特論	1、2		2		
老年看護学演習	1、2		2		
生涯健康看護学特別研究	1～2	8			
(高度実践看護学部門)					
慢性看護学特論A	1	2		○	
慢性看護学特論B	1	2		○	
慢性看護支援論A	1	2		○	
慢性看護支援論B	1	2		○	
慢性看護支援論C	1	2		○	
慢性看護支援論演習Ⅰ	1	2		○	
慢性看護支援論演習Ⅱ	2	2		○	
慢性看護学実習Ⅰ	1	2		○	
慢性看護学実習Ⅱ	2	4		○	
慢性看護学実習Ⅲ	2	4		○	
在宅看護学特論A	1	2		□	
在宅看護学特論B	1	2		□	
在宅看護支援論A	1	2		□	

高度実践看護学部門にあつては、必修科目30単位(○印は慢性疾患看護学分野のみ、□印は在宅看護学分野のみ)、選択科目10単位以上の合計40単位以上を修得し、かつ課題研究の最終試験に合格すること。
 ▲ただし、表中の

在宅看護支援論B	1	2		<input type="checkbox"/> 選択科目のうち△ <input type="checkbox"/> 印の科目から4単 <input type="checkbox"/> 位以上、▲印の科 <input type="checkbox"/> 目6単位の10単位 <input type="checkbox"/> 以上を修得するこ <input type="checkbox"/> と。 <input type="checkbox"/>
在宅看護支援論C	1	2		
在宅看護支援論演習 I	1	2		
在宅看護支援論演習 II	2	2		
在宅看護学実習 I	1	3		
在宅看護学実習 II	2	3		
在宅看護学実習 III	2	4		
高度実践看護学課題研究	1～2	2		
(助産学部門)				
ウイメンズヘルス助産学特論	1	1		助産学部門に あっては、必修科 目51単位、共通 選択科目から6単 位以上の計61単 位以上を修得し、 かつ特別研究の 最終試験に合格 すること。
ウイメンズヘルス助産学演習	1	1		
周産期包括支援特論	1	2		
周産期包括支援演習	1	1		
助産倫理特論	1	1		
国際助産学特論	1、2	2		
健康教育演習	2	1		
助産学実習IV	2	2		
助産学実習V	2	1		
助産学概論	1	1		
助産学特論 I	1	2		
助産学特論 II	1	2		
助産学特論 III	1	1		
助産診断技術学特論 I	1	2		
助産診断技術学特論 II	1	2		
助産診断技術学特論 III	1	2		
実践助産学演習 I	1	3		
実践助産学演習 II	1	1		
助産マネジメント特論	2	2		
地域母子保健特論	1	2		
助産学実習 I	1	2		
助産学実習 II	1	8		
助産学実習 III	2	1		
助産学特別研究	1～2	8		
(キャリア教育関連)				
インターンシップC	1		1	
インターンシップD	1		2	
インターンシップF	1		3	

(2) (博士後期課程)

環境科学研究科

授業科目の名称	配当年次	単位数			修了要件
		必修	選択	自由	
【環境動態学専攻】					いずれかの研究部門に おいて4単位および研究 科共通選択科目から4 単位以上を修得し、かつ 博士論文を提出し論文 審査および最終試験に 合格すること。
(生物圏環境研究部門)					
授 生物圏環境特別演習 I	1		2		
業 生物圏環境特別演習 II	2		2		
科 生物圏環境特別研究	1～3		—		
(生態系保全研究部門)					
目 生態系保全特別演習 I	1		2		
の 生態系保全特別演習 II	2		2		
概 生態系保全特別研究	1～3		—		
(生物生産研究部門)					
生物生産特別演習 I	1		2		
生物生産特別演習 II	2		2		
生物生産特別研究	1～3		—		
【環境計画学専攻】					
(環境意匠研究部門)					

要	環境意匠特別演習Ⅰ	1	2		
	環境意匠特別演習Ⅱ	2	2		
	環境意匠特別研究	1～3	—		
	(地域環境経営研究部門)				
	地域環境経営特別演習Ⅰ	1	2		
	地域環境経営特別演習Ⅱ	2	2		
	地域環境経営特別研究	1～3	—		
	【研究科共通選択科目】				
	環境科学特論	1、2、3	2		
	生物圏環境特論	1、2、3	2		
	生態系保全特論	1、2、3	2		
	生物生産特論	1、2、3	2		
	環境意匠特論	1、2、3	2		
地域環境経営特論	1、2、3	2			

工学研究科

授業科目の名称		配当年次	単位数			修了要件
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	【先端工学専攻】					必修科目4単位および選択科目4単位以上を修得し、かつ博士論文を提出し論文審査および最終試験に合格すること。
	無機材料特論	1、2		2		
	有機材料特論	1、2		2		
	機械工学特論	1、2		2		
	機械システム工学特論	1、2		2		
	電子システム特論	1、2		2		
	電子情報特論	1、2		2		
	先端工学特論	1、2	2			
	先端工学特別演習	1、2	2			
	先端工学特別研究	1～3	—			

人間文化学研究科

授業科目の名称		配当年次	単位数			修了要件	
			必修	選択	自由		
授業科目の概要	【地域文化学専攻】					必修科目4単位および選択科目4単位以上を修得し、かつ博士論文を提出し論文審査および最終試験に合格すること。	
	(日本・歴史文化論部門)						
	日本・歴史文化論特別演習	1～2		4			
	日本・歴史文化論特別研究	1～3		—			
	(日本・現代地域論部門)						
	日本・現代地域論特別演習	1～2		4			
	日本・現代地域論特別研究	1～3		—			
	(国際文化論部門)						
	国際文化論特別演習	1～2		4			
	国際文化論特別研究	1～3		—			
	【生活文化学専攻】						
	(生活デザイン論研究部門)						
	生活デザイン論特別演習	1～2		4			
	生活デザイン論特別研究	1～3		—			
	(健康栄養論研究部門)						
健康栄養論特別演習	1～2		4				
健康栄養論特別研究	1～3		—				
(人間関係論研究部門)							
人間関係論特別演習	1～2		4				
人間関係論特別研究	1～3		—				
【研究科共通科目】							

研究方法特論	1	2			
リサーチ・ワークショップ	1	2			

人間看護学研究科

授業科目の名称	配当年次	単位数			修了要件
		必修	選択	自由	
【人間看護学専攻】					博士後期課程に3年以上在学し、授業科目について所定の単位数を取得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査および最終試験に合格すること
(共通科目)					
授 看護学研究特論Ⅰ	1	2			
業 看護学研究特論Ⅱ	1	2			
看護臨床疫学・統計学特論	1、2			2	
看護教育工学特論	1、2	2			
(専門科目(基盤看護学研究部門))					
科 基盤看護学特論	1		2		
基盤看護学演習	1		1		
(専門科目(看護実践科学研究部門))					
目 看護実践科学特論	1		2		
看護実践科学演習	1		1		
(研究科目)					
概 特別研究Ⅰ	1	2			
特別研究Ⅱ	2	2			
要 特別研究Ⅲ	3	2			

別表2

中学校教諭専修免許・高等学校教諭専修免許に係る教科及び教科の指導法に関する科目
環境科学研究科環境動態学専攻 …… 理科

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
GIS/リモートセンシング論		2	選択科目より24単位以上を修得すること。
物質循環論		2	
地圏環境論		2	
水圏生態系動態論		2	
森林生態学特論		2	
集水域環境論		2	
生態系影響論		2	
生物社会共生論		2	
土壌圏物質動態論		2	
陸面過程論		2	
水利環境論		2	
化学物質動態論		2	
植物生産環境論		2	
植物遺伝資源論		2	
動物生産環境論		2	
生産環境管理論		2	
植物資源管理論		2	
魚類栄養学特論		2	
環境動態学特別演習Ⅰ		4	
環境動態学特別演習Ⅱ		4	
環境動態学特別研究Ⅰ		4	
環境動態学特別研究Ⅱ		4	

高等学校教諭専修免許に係る教科及び教科の指導法に関する科目
環境科学研究科環境計画学専攻 …… 公民

授業科目の名称	単位数		備考		
	必修	選択			
環境リスク論		2	選択科目より24単位以上を修得すること。		
農林環境政策論		2			
都市計画特論		2			
構造設計特論		2			
居住環境工学		2			
循環型社会形成論		2			
資源循環と国際貿易		2			
参加型計画運営論		2			
環境政策形成過程論		2			
環境開発論		2			
環境計画学特別研究Ⅰ		4			
環境計画学特別研究Ⅱ		4			
(環境意匠研究部門)				<input type="checkbox"/> 印および○印 の科目から1科目 ずつ選択	
環境計画学特別演習ⅠA		4			<input type="checkbox"/>
環境計画学特別演習ⅠB		4			<input type="checkbox"/>
環境計画学特別演習ⅡA		4			○
環境計画学特別演習ⅡB		4			○
(地域環境経営研究部門)					
環境計画学特別演習Ⅲ		4			
環境計画学特別演習Ⅳ		4			

高等学校教諭専修免許に係る教科及び教科の指導法に関する科目

工学研究科材料科学専攻 …… 工業

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
			選択科目より24単位以上を修得すること。
固体物性特論		2	
非晶質無機材料		2	
構造・化学機能セラミックス		2	
高分子固体構造		2	
ナノ・マイクロ組織制御工学		2	
機能界面化学		2	
高分子材料物性		2	
高分子材料合成		2	
天然高分子材料		2	
生体機能化学特論		1	
遺伝子生化学		1	
機能有機分子合成		2	
環境機能材料		2	
材料科学特別実験		5	
材料科学特別演習		5	

中学校教諭専修免許・高等学校教諭専修免許に係る教科及び教科の指導法に関する科目

工学研究科機械システム工学専攻 …… 技術・工業

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
			選択科目より24単位以上を修得すること。
応用流体力学		2	
伝熱学特論		2	
燃焼工学		2	
混相流工学		2	
強度設計工学		2	
非破壊評価特論		2	
応用メカトロニクス論		2	
非線形制御論		2	
最適化システム論		1	
動的システム論		2	
ロバスト設計論		2	
人工知能		2	
NC工作機械		2	
機械システム工学特別実験		5	
機械システム工学特別演習		5	

高等学校教諭専修免許に係る教科及び教科の指導法に関する科目

工学研究科電子システム工学専攻 …… 工業

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
			選択科目より24単位以上を修得すること。
電力エネルギー工学		2	
超伝導デバイス		2	
荷電粒子ビーム工学		2	
無線システム工学		2	
集積システム設計論		2	
確率過程論		2	
光物性特論		2	
音響工学		2	
複雑ネットワーク概論		2	
ヒューマンコンピュータインタラクション		2	
ナノ計測工学		2	
ナノテクノロジー特論		1	
研究方法論		1	
テクニカルコミュニケーション		1	
総合工学セミナー		1	

中学校教諭専修免許・高等学校教諭専修免許に係る教科及び教科の指導法に関する科目
人間文化学研究科地域文化学専攻 …… 社会・地理歴史

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
			選択科目より24単位以上を修得すること。
日本生活文化論		2	
日本考古学A		2	
日本考古学B		2	
環琵琶湖地域論A		2	
環琵琶湖地域論B		2	
女性史・ジェンダー論A		2	
女性史・ジェンダー論B		2	
美術史特論A		2	
美術史特論B		2	
社会学特論A		2	
社会学特論B		2	
地域産業論A		2	
地域産業論B		2	
現代中国特論A		2	
現代中国特論B		2	
環琵琶湖保存修景計画論		2	
地域計画特論		2	
地域文化遺産調査・情報論		2	
地域文化学特別演習		8	
地域文化学特別研究		8	

中学校教諭専修免許・高等学校教諭専修免許に係る教科及び教科の指導法に関する科目
人間文化学研究科生活文化学専攻 …… 社会・公民

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
			選択科目より24単位以上を修得すること
フィールド心理学特講		2	
教育学特講A		2	
教育学特講B		2	
比較行動論特講		2	
行動発達論特講		2	
社会学特講A		2	
社会学特講B		2	
生活文化学特別演習(人間関係分野)		8	
生活文化学特別研究(人間関係分野)		8	

養護教諭専修免許に係る教科及び教科の指導法に関する科目
人間看護学研究科人間看護学専攻

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
	2		必修および選択科目より24単位以上を修得すること。
学校保健学			
家族看護学特論		2	
看護教育学		2	
コンサルテーション論		2	
看護倫理		2	
フィジカルアセスメント		2	
病態生理学		2	
看護技術学特論		2	
精神看護援助方法論		2	
精神看護関連技法演習		2	
在宅看護学特論		2	
公衆衛生看護学特論		2	
母性看護学特論		2	
小児家族看護学特論		2	
小児家族看護学演習		2	